

夏目漱石作品の教材化と指導方法について —近代国語教材史の研究—

埼玉大学大学院 川島 絵美

夏目漱石作品は、現在、高等学校の国語教科書の国語IIまたは、現代文のほとんどに採録されており、もはや定番化した教材ともいえる。また、漱石作品は明治の時代から現在に至るまで八十年以上にわたって教科書に採り上げられ続けており、採り上げられた作品数は、二十以上にのぼる。

本研究は、高等学校の国語教科書出版社のほとんどが漱石作品を採り上げているということと、長期にわたって教科書に採り上げられ続けているという二つの事実に着目し、漱石作品の教材化について、歴史的な観点から調査するとともに、これまで教材化されてきた理由を明らかにし、現在の教材や指導状況を調査した上で、漱石作品の教材としての必要性について考察し、今後あるべき姿を考えるものである。

これまでの研究で以下の点について調査あるいは検討してきた。

- ① 中等教育における教材の変遷と教育思想の変化
(明治時代から現在までの国語教育史・国語教材史や学習指導要領の変遷等)
- ② 教科書に採られている漱石作品の変遷
(戦前・戦後の状況について)
- ③ 漱石作品の教材化について、先行論文の検討
- ④ 指導実践例の検討
(教科書の「学習の手引き」、指導案、実践報告等)
- ⑤ 教育現場での漱石作品に対する意識調査

このような調査から、長期にわたる漱石作品の教材化の背景にあるもの、時代により採り上げられる作品の変遷、教材化の理由、そして、現在の漱石作品教材の指導の状況が明らかになった。漱石作品の教材としての必要性については、考察した結果、漱石作品は教材として不可欠であると判断することができた。しかし、現在の教材、指導状況については、問題があると感じ、漱石作品の教材と指導方法について見直す必要があると感じた。そのため、理想的な漱石作品の教材についても検討を試みた。

今回の発表では、これまで研究してきた③以降のところ（漱石作品の教材化の理由と教材としての必要性、現在の状況、に関わる部分）を中心に発表を行い、更にあわせて、理想的な漱石作品の教材について検討したものを提案する。